

2 小学校 算 数

設問別調査結果 [小学校 算数A：主として知識]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	8	◆	81.8
	量と測定	3	◆	74.8
	図形	4	◆	71.8
	数量関係	3	◆	81.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	0		
	数量や図形についての技能	8	◆	87.9
	数量や図形についての知識・理解	9	◆	69.5
問題形式	選択式	8	◆	70.7
	短答式	9	◆	84.8
	記述式	0		

記号の意味



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1(1)	46+57を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	2A(2)ア					○	◆	96.9	0.0	0.1	
1(2)	903×6を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3A(3)イ					○	◆	92.8	0.3	0.2	
1(3)	9-0.8を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	3A(5)イ					○	◇	83.8	1.1	0.8	
1(4)	2÷5を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	4A(5)ウ					○	◆	91.8	1.3	0.9	
1(5)	100-20×4を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				4D(2)ア		○	▽	80.9	0.6	0.5	
1(6)	1/3+2/5を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	5A(4)オ					○	▽	90.6	1.7	1.1	
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	5A(3)ア					○	◆	71.9	0.4	0.3	
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	5A(3)ア					○	◆	54.1	0.5	0.4	
3	示された分数の中から、1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	5A(4)アイエ					○	◆	72.5	0.8	0.6	
4(1)	8m ² に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	5B(4)ア					○	◆	82.3	0.9	0.7	
4(2)	8m ² に16人いるAの部屋について、1m ² 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	5B(4)ア					○	▽	60.8	4.8	3.4	
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる				5C(1)エ		○	▽	83.9	1.6	1.5	
5(2)	1cm ³ の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm ³)と測定について理解している	5B(2)アイ					○	◆	81.1	2.4	1.8	
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している				4C(1)アイ		○	▽	52.0	0.9	0.6	
7	縦5cm、横1cm、高さ4cmの直方体の面①になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している				2C(1)ウ 4C(2)ア		○	◇	69.4	0.9	0.7	
8	答えが100-20×4の式で求められる問題を選ぶ	四則の混合した式の意味について理解している				4D(2)ア		○	◆	81.0	1.3	0.9	
9	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ	二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる	5C(1)ア			4D(1)ア 4D(2)ウ		○	◆	82.0	1.7	1.2	

(Δ)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▽)下回っている

【設問分析】

1 四則計算

1は、整数、小数、分数の計算をすることができるかどうか、四則の混合した計算をすることができるかどうかをみるものであり、整数の計算が4問、そのうち商が小数になる計算が1問、小数の計算が1問、分数の計算が1問の計6つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- 繰り上がりのある加法「(2位数)+(2位数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・被乗数に空位のある整数の乗法「(3位数)×(1位数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

- ・小数第1位までの減法「(整数)－(小数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(4)】

- ・商が小数になる除法「(整数)÷(整数)」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(5)】

- ・減法と乗法の混合した整数の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

【設問(6)】

- ・同分母の分数の加法「(真分数)+(真分数)」の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

設問(6)は、全国の平均正答率を下回っており、「同分母の分数の減法」を調査した平成24年度調査よりも正答率が高いものの、全国との差が大きい。分数の計算方法の意味について確実に理解する指導が求められる。

設問(5)は、「減法と除法の混合した整数の計算」を調査した平成21年度調査より、正答率が上がり、全国平均との差も縮まっている。四則混合の計算のきまりについての理解を深めることが重要である。

2 乗法の意味

②は、図に示された数量の関係を読み取り、比較量を求めるために、乗法が用いられることを理解しているかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・割合が1より大きい場合、比較量が(基準量)×(割合)で求められることを理解することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・割合が1より小さい場合、比較量が(基準量)×(割合)で求められることを理解することについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

割合が1より小さい場合の比較量を求める設問(2)は、全国の平均正答率が54.1%となっており、平成19年から22年度の4年間の調査結果を分析し、成果と課題として認められる内容と、課題として考えられる内容をとりまとめた「4年間のまとめ【小学校編】」や平成24年度調査からも継続して課題となっている。小数倍においても、整数の場合と同様に成り立つことを理解できるようにする指導が求められる。

3 分数の大きさ

③は、分数の相等及び大小について理解しているかどうかをみるものである。

- ・分数についての理解を深めるとともに、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにすることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

全国の平均正答率の72.5%よりやや低くなっており、分数の大きさを図や数直線で表すことで、分数の大きさについての感覚を豊かにし、分数の意味や大きさについて理解を深めることが大切である。

4 異種の二つの量の割合

4は、異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解しているかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・単位量あたりの大きさの求め方を理解することについては、全国の平均正答率を下回っている。

本設問(2)は、A問題の中で全国の平均正答率が60.8%と低く、無解答率も高い。1㎡あたりを求める問題文が「8㎡に16人いる。」であったことから、「 $8 \div 16$ 」と誤って立式した児童の割合が全国平均よりも上回っており、求めた商の意味を理解できるようにする指導が大切である。

5 円周、直方体の体積

5は、円周の長さを求めることができるかどうかをみたり、体積について、単位と測定の意味を理解しているかどうかをみたりするものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

【設問(2)】

- ・体積の単位(1cm³)と測定についての理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「図形」領域における「円周について理解する」については、全国の平均正答率を下回っており、作業的・体験的な活動を通じた指導が求められる。全国の平均正答率と反対に、設問(1)よりも設問(2)が高いことから、体積については作業的・体験的な指導が充実していると考えられる。

6 平面図形の作図

6は、作図に用いられている図形の約束や性質を理解しているかどうかをみるものである。

- ・作図に用いられている図形の約束や性質の理解については、全国の平均正答率を下回っている。

全国の平均正答率が52.0%であり、およそ半数の児童が誤答となっている。作図の操作と図形の性質を関連付けて作図の理解を深めるようにする指導の充実が求められる。

7 直方体の面の形と大きさ

7は、立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解しているかどうかをみるものである。

- ・立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解しているかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「図形」領域における「立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係」については、全国の平均正答率をやや上回っており、5の設問(2)と合わせ、立体図形についての指導が充実していると考えられる。

8 式の表す意味

8は、四則の混合した式の意味について理解しているかどうかをみるものである。

- ・四則の混合した式の意味について理解しているかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

1の設問(5)と同じ式を用いた本設問は、全国とは反対に8の正答率の方が高い。式の意味は理解しているが、計算のきまりについては理解していないため、式の意味と計算のきまりを関連付けた指導が求められる。

9 □、△などを用いた式

9は、二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができるかどうかをみるものである。

- ・二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことへの理解については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりする」ことについては、初の調査であり、全国の平均正答率が82.0%となっている。第4学年から変数を表す記号として理解できるようにする指導が求められる。

設問別調査結果 [小学校 算数B：主として活用]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	8	◆	61.3
	量と測定	5	◆	56.5
	図形	1	◇	65.7
	数量関係	5	◆	56.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	6	◆	47.8
	数量や図形についての技能	4	◆	76.2
	数量や図形についての知識・理解	3	◇	54.8
問題形式	選択式	4	◇	64.7
	短答式	4	◆	62.2
	記述式	5	◆	49.7

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3%

← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1(1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	3A(3)ア					○	◆	94.6		0.4	0.3
1(2)	二人の説明を基に、37×24の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	2A(1)エ 3A(3)ウ			4D(3)ア			○	▼	55.2	8.2	6.0
2(1)	6・7月の水の使用量1500m ³ は、プールに入る水の量250m ³ の何倍かを求める式と答えを書く	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	4A(3)イエ	5B(2)ア				○	◆	82.5		3.4	3.0
2(2)	1目盛りを50m ³ として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる		5B(2)ア		3D(3)ア			○	▼	69.1	3.7	2.6
2(3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる		5B(2)ア		2D(3) 3D(3)ア 4D(4)イ 5D(4)		○	△	61.5		1.6	1.2
3(1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる		3B(3)イ				○	◆	38.6		4.8	3.4
3(2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	1A(1)キ 2A(1)オ					○	◆	56.7		2.4	1.8
3(3)	示された分け方でスूपを分けたとき、残りの30人にスूपを分けられるかどうかを選び、そのわけを書く	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる		2B(2)ア 5B(4)ア				○	◆	30.6		2.5	1.9
4(1)	㉞のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	1A(1)イ			4D(1)ア		○	◆	62.2		2.1	1.7
4(2)	二人の㉞のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	5A(1)イ					○	◇	60.5		12.8	12.1
5(1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる				2C(1)イ		○	◇	65.7		6.1	5.2
5(2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる	5A(3)ア					○	◇	46.1		4.3	3.5
5(3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	5A(3)イ			5D(3)		○	◆	33.0		16.1	13.1

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

【設問分析】

1 計算法則の解釈と説明(計算のきまり)

1は、示された計算のきまりを基に、計算の結果の見通しをもち、筆算をすることと、示された計算のきまりを解釈し、それを基に、異なる数値の場合の計算の工夫を数学的に表現できるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- 示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができるかどうかをみることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみることについては、全国の平均正答率を下回っている。

設問(1)は、全国の平均正答率の 94.6%をやや下回っている状況であるが、相当数の児童ができており、指導の充実がみられる。設問(2)は、全国の平均正答率を下回っており、きまりを見つけるなどの成り立つ性質を調べる指導の充実が大切である。

2 資料の観察と目的に応じた表現（水の使用量）

②は、示された表を基に、二つの数量の関係を倍で表すこと、示されたグラフでは、表の中の数量を表すことができない理由を数学的に表現すること、表す目的に応じたグラフを選択することができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

・示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

・最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率を下回っている。

【設問(3)】

・全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、全国の平均正答率を上回っている。

設問(1)は、全国の平均正答率の 82.5%をやや下回っている状況であるが、相当数の児童ができており、指導の充実がみられる。記述式の設問(2)は、全国の平均正答率を下回っているが、選択式の設問(3)が全国の平均正答率を上回っており、グラフを読み取る指導に際しては、理由を考えさせる指導の充実が求められる。

3 情報の整理・選択と判断の根拠の説明（配膳）

③は、日常の事象を数理的に捉え、条件に合う時間を求めること、十を単位として、数の相対的な大きさを捉え、その関係を表している図を選択すること、示された情報を基に量の大小を判断し、その判断の理由を数学的に表現することができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

・示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

・10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(3)】

・示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

全ての設問において、全国の平均正答率と比較してやや下回っており、特に設問(3)は、全国の平均正答率が 30.6%と低いことから、数を見るときに10や100などを単位としてまとまりでみる指導が求められるとともに、時計や単位となる量を根拠となる図や表、グラフと関係づけ説明する指導の充実が求められる。

4 事象の数学的な解釈と表現（リズム）

④は、示された事象を観察し、繰り返し出現する事象から規則性を読み取ること、場面の状況を倍数の考え方を基に解釈し、数学的に表現することができるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・繰り返されるリズムの規則性（周期）を見だし、それを基に小節数を求めることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

設問(2)は、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが無解答率が高かった。規則性を見いだしたり、日常の事象を的確に表現したりする指導が求められる。

5 事象の観察と論理的な考察（日本の伝統文化）

⑤は、日常の事象を数理的に捉え、示された条件を基に、図形を構成すること、示された情報を解釈し、基準量、比較量、割合の関係を正しく表している図を選択すること、示された情報を基に、筋道を立てて考え、長さの求め方を数学的に表現することができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(2)】

- ・示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問(3)】

- ・示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

設問(2)、設問(3)は、全国の平均正答率と比較して、やや上回っていたり、下回っていたりするが、無解答率も高いことから、規準量や比較量を的確に捉える等の活動を通して、理由を考えて言葉や表を用いて説明する指導の充実が求められる。

小学校 算数

児童生徒質問紙【教科に関する設問】	年度	【1】	【2】	【3】	【4】
算数の勉強は好きですか	H25	37.6	26.3	19.8	16.1
	H26	39.3	24.9	19.6	16.0
算数の勉強は大切だと思いますか	H25	69.3	21.1	6.3	3.1
	H26	70.5	20.1	6.0	3.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	H25	41.3	33.7	17.8	7.0
	H26	41.5	33.7	17.7	6.9
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	H25	51.0	23.3	16.3	9.2
	H26	51.7	23.6	15.9	8.6
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	H25	41.5	33.0	18.5	6.7
	H26	41.4	33.9	18.2	6.3
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	H25	29.8	30.4	26.0	13.5
	H26	29.5	31.1	26.5	12.8
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	H25	61.8	24.0	9.7	4.3
	H26	60.9	25.1	9.6	4.1
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	H25	46.2	31.0	15.9	6.6
	H26	45.8	31.5	16.3	6.1
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	H25	48.2	31.7	14.6	5.1
	H26	48.7	32.4	14.0	4.6
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	H25	51.7	29.3	13.8	4.8
	H26	52.6	29.4	13.4	4.3

【1】当てはまる

(単位は%)

【2】どちらかと言えば、当てはまる

【3】どちらかと言えば、当てはまらない

【4】当てはまらない

<設問分析>

- 「算数の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 64.2%（「当てはまる」は 39.3%）となっており、全国平均を 1.9 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 63.9%である。全国平均も低いことから、今後とも、算数的活動を通じて、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付くことができるような楽しい算数の授業を進めていくことが求められる。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 90.6%となっており、全国平均を 1.7 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 90.4%である。今後とも、実生活における様々な事象との関連を図ったり、体験的な算数的活動を工夫したりするなどしながら、算数の価値や算数を学習する意義が分かるような授業を行うことが求められる。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 75.2%（「当てはまる」は 41.5%）となっており、全国平均を 4.4 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 75.0%である。今後、更に一人一人の学習実現状況を的確に把握し、個に応じた指導を充実することが求められる。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 75.3%となっており、全国平均を 2.0 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的な回答が 74.3%である。今後、既習を活用して新しい問題を解決することを大切にしたい学習を充実することが大切である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 75.3%（「当てはまる」は 41.4%）となっており、全国平均を 2.8 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 74.5%である。今後、多様な考え方の違いや根拠を明らかにし、解決の見通しをもつことができるようにする学習の工夫が求められる。

- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 60.6%（「当てはまる」は 29.5%）となっており、全国平均を 5.7 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 60.2% である。引き続き、日常生活の場面において算数が活用されているものを探するなど、算数の有用性を感じ取らせる指導の充実が求められる。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 86.0% となっており、全国平均を 3.0 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 85.8% である。今後とも、算数と日常生活との関連を図りながら、算数の有用性に気付かせるような指導の工夫が求められる。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 77.3% となっており、全国平均を 2.1 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 77.2% である。今後、より効率的な考え方を求めることを課題とした学習を充実するなど、課題意識を大切にした学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 81.1% となっており、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 79.9% である。今後とも、公式やきまりなど、一般化された考え方や解決方法を探究する学習や、見付けた公式やきまりなどを言葉で説明し理解を深めるような学習などを取り入れるなどの学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が 82.0% となっており、全国平均を 1.4 ポイント下回っている。25 年度の調査では、肯定的に回答した割合は 81.0% である。今後とも、問題に見通しをもち、筋道を立てて考え、ノートなどに、その考えを表現する学習を取り入れ、表現する活動を通して考える力を高める指導の工夫が求められる。